回覧用									

発行日	令和４年 12 月 26 日
発行元	災　害　対　策　課
所属長	課　長　森本　仁信
電　話	06－6489－6165

防災対策情報便

令和４年12月号

1　新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行への備え

今冬は、新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行が懸念されており、多くの発熱患者が同時に生じ、医療がひっ迫する可能性があります。

限りある医療資源の中で、必要な方に適切な医療が提供できるよう、基本的な感染対策の徹底や事前準備と、感染状況や一人ひとりの重症化リスク等に応じた外来受診・療養へのご協力についてよろしくお願いします。

私たち一人ひとりが、「自分が感染しているかもしれない」という心構えで感染予防行動を徹底することで、感染者を減らし、症状の重症化を食い止めることができます。これまでの感染拡大の経験から、感染リスクが高い行動や場面が明らかになってきました。

多くの命を守るために、市民の皆様におかれましては、普段の行動を見直すとともに、感染予防の徹底をお願いします。

新型コロナウイルス対策キャンペーン活動の様子

2 地域の訓練に密着しました！！（第2弾）

11 月号に引き続きは、11 月に行われた一部の自主防災会の訓練をご紹介します。

田能自主防災会

救護訓練

初期消火訓練

小中島自主防災会

心肺蘇生法

生島西自主防災会

救助訓練

初期消火訓練

金楽寺自主防災会

応急給水栓操作訓練

芋自主防災会

マイ避難カードの作成

西大島自主防災会

心肺蘇生法

中央自主防災会

浜田自主防災会

3　地域の防災つなぎ隊！！

今回は、防災士でひょうご防災リーダーでもある新山さんにお話しを伺いました。新山さんは、仕事でシステム開発に携わっていた事から東日本大震災後、地域の防災プロジェクトで安否確認システムを手がけ、その事が地域防災に携わるきっかけになりました。

ですがコミュニティグループ活動を通じ、企業や地域、居住条件により防災意識に温度差があると体感した事や、親しい方の幼いお子さんが自宅内の事故で亡くなった事で、防災と減災の為の正しい知識を学ぼうと決意し防災士・応急手当普及員の資格を取得し、現在は災害支援以外に減災活動をされています。

Q　今後地域における課題や取り組んでいきたいことは何ですか？
A　個々の自助・自衛についての具体的な取り組みの発信をしたいです。
災害は自宅や安定した場所にいる時に発生するとは限りません。
日々活動、移動するところ全てが対象であり個々の状態も異なります。
私自身、昨年から病気を患い治療する期間がありました。
その時に「今、ここで大災害が発生したら治療はどうなるのだろう」と考えました。当然、病院は被災した人でいっぱいになるでしょう。
“その時”になってみないとわからない事も多く、高めなければいけない自助力は個々に違うと今まで以上に強く感じました。
色々な立場の方に寄り添い一緒に自助力を高め合う事が出来るように正しい内容で、そして心に届く発信力を身に着けたいと思うのです。

Q　行政に取り組んで欲しいことは何ですか？
A　まずは、私のような防災士やひょうご防災リーダーが、地域防災が抱える問題点、取り組み、活動の成果や反省などを共有できる機会を設けて欲しいです。そのような情報交換の場や又一緒に活動できる機会があれば地域にもフィードバックできると思うのです。
そして地域と行政、防災士やひょうご防災リーダーをつなぐための掲示板のようなツールがあると、非常に有益なものになるかと感じますのでご検討頂きたいと思います。